



プロジェクトの健康診断 してみませんか？

オブジェクトモデリングスペシャリスト
土屋 正人

Masato Tsuchiya
m-tsuchi@sra.co.jp

身体健康状態が変化するように、プロジェクトの状態も変化します。健康状態を把握するために定期的に健康診断を受けますが、同様にプロジェクトにも状態を把握するために「診断」が必要だと思います。プロジェクト健康診断というわけです。今回は私たちが行っている「プロジェクト健康診断」をご紹介します。

◆プロジェクトは健康ですか？

ソフトウェア開発プロジェクトは人が頼りです。プロジェクトチーム全員が、ビジョンを共有し、目標を共有し、混沌・不安な状況を払拭し、協力し合うことが欠かせません。これらが達成できればチームの「やる気」は高まります。**チームが「やる気」に満ち溢れていれば、プロジェクトは健康**といえます。

逆に、プロジェクトの健康状態が悪いと、次のような症状が出ます。

- 全体のスケジュールが見えない
- どこに何があるのかわからない
- 欲しいドキュメントが揃っていない
- 他の人が何をやっているのかわからない
- 何のためにこの作業をやっているかわからない

最初の4つの症状は**プロセスの問題**といえますが、最後の症状は**モチベーションの問題**もあります。「やる気」が落ちていれば、いくらメンバのスキルが高くても良い結果を出すことはできません。「やる気」が高まれば、メンバ同士が協力して良い結果を出そうとして、自然とスキルも高まります。「やる気」を見える化することで、プ

ロジェクトチームの健康を診断することができます。

プロジェクト健康診断には「プロセス」の視点と「やる気」の視点の2つの診断方法があります。ここでは、後者の例を紹介します。

◆「やる気」を見える化する

自分たちのやり方——プロセスを改善する施術として「ふりかえり」があります。「ふりかえり」というと、自分たちのやり方の良い点、すなわち継続したいこと（Keep）、悪い点、すなわち改善が必要なこと（Problem）、それらに対処するためにチャレンジしたいこと（Try）の3つの視点をチーム全員でディスカッションするKPT（けぷと）が知られていますが、「ふりかえり」に使えるアクティビティは他にもいろいろあります。Esther Derby と Diana Larsen による「アジャイルレトロスペクティブズ」という本では、数多くのアクティビティを、アイスブレイク、データ収集、アイデア出し、施策決定、クロージングの5つに分類して紹介しています。

私たちはモチベーションを見える化するために「プロジェクトレーダーチャート」「タイムライン」というオリジナルアクティビティを実施しています。「プロジェクトレーダーチャート」は、QCDにモチベーション（M）を加えた、次の4軸のレーダーチャートを使います（図1）。

- 顧客は品質に満足してもらえるか（Q）
- 残業が必要か（C）
- 納期に間に合うか（D）
- 楽しんで仕事をしているか（M）

各軸は、外側に行くほどYesの度合いが強く、内側に行くほどNoの度合いが強い、という意味を持ちます。実施手順は次の通りです。

1. レーダーチャートを書いた模造紙を壁に貼る
2. 参加メンバ全員に大きな付箋紙を配る

3. メンバは付箋紙にレーダーチャートを書く
4. メンバは 4 軸ごとに Yes/No の度合いを評価し、レーダーチャートにプロットする
5. 付箋紙のレーダーチャートと同じ評価を、模造紙のレーダーチャートにプロットする
6. 全員で結果を評価する

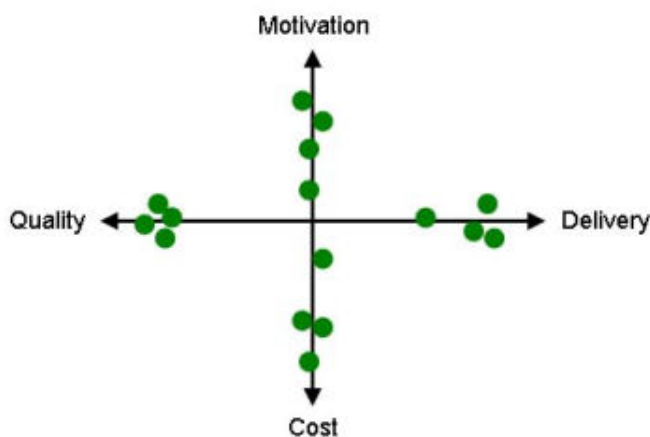


図 1 プロジェクトレーダーチャート

モチベーション軸のプロット結果が Yes 側に集中していれば、そのプロジェクトは健康といえるでしょう。No 側に集中した場合、一人だけモチベーションが低い場合、いずれも原因の分析が必要です。

◆「気分の波」から原因を探る

「タイムライン」はプロジェクトの出来事を時系列で振り返るものですが、私たちは「気分の波」の見える化に使っています。縦軸が気分、横軸が時間経過をあらわすグラフを書き、プロジェクトのある期間で気分がどのように変化したかを波線で表現します。

気分が良かった時期、悪かった時期、それぞれ何があったのかを調べることで、この先も継続すること、改善することを引き出す手がかりが得られます。

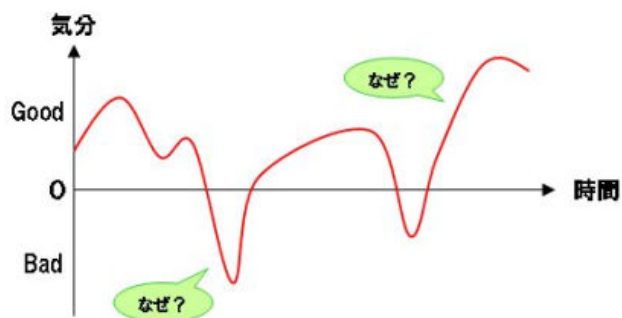


図 2 タイムライン

図2には1本の波線しか書かれていませんが、前述したレーダーチャート同様、メンバ全員が同じグラフ上に波線を引いていきます。沈み込んだ時期、高揚した時期が重なる場合もありますが、ばらつきが出ることも結構あります。ばらついた原因を探ることで、個人で抱え込んでいた問題が顕在化することがあります。

◆プロジェクト健康診断フロー

プロジェクト健康診断は、次のステップからなります。

1. 問診:ヒアリング
2. 検診:アセスメント
3. 診断:診断表作成、施術提案
4. 施術:ふりかえりにより改善策を検討、改善策の実施
5. 術後診断:アセスメントによる施術効果診断

施術前後のアセスメント結果から、改善効果を定量的・定性的に把握することができます。

今回ご紹介したのはステップ 4「施術」のはじめに行うふりかえりの一例です。ステップ 4 でふりかえりの結果を受けて行う「改善策の実施」には多くの時間を要するものがありますが、その他のステップはいずれも 1 時間から数時間で済みます。一度試してみませんか？

夢を。



GSLetterNeo Vol. 48

2012 年 7 月 20 日発行

発行者●株式会社 SRA 産業第 1 事業部

編集者●土屋正人、柳田雅子、野島勇

バックナンバを公開しています●<http://www.sra.co.jp/gsletter>

ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします●gsneo@sra.co.jp

株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-32-8

夢を。Yawaraka Innovation
やわらかいのべしょん